



上 那美志 心

和装本

和装本  
^ 5  
6487



陽雲耕齋文庫



身之氣におりて一と新とあはれ人  
 天地とあはれ一と新とあはれ人  
 身之の風雅を古とあはれ人  
 貴口をむくしとあはれ人  
 清く遠く一と新とあはれ人  
 老人の氣を名とあはれ人  
 我家の杖を名とあはれ人  
 四方の吟詠を名とあはれ人  
 一と新とあはれ人



昔とて其志を成すの如し  
年波集既下之編亦及ふと雖  
色を元傳ふ所あり人知らざる  
我もの付し何れも中々如きは花  
似しとてまじき所ありて

弘化二年春

柿園南

條樹年書

いそ如時とて其志を成すの如し  
昔とて其志を成すの如し  
曲より不來とて其志を成すの如し  
遠東の山より其志を成すの如し  
吹拂けり其志を成すの如し  
は心より其志を成すの如し  
いそ如時とて其志を成すの如し  
鏡山より其志を成すの如し

多ふ只ふささしめや露の茶をまふ  
 静急の葉やさし物と梅の下通る  
 春の和やうり春の葉もさし山の  
 雪や神音とさし身のおもひ  
 海苔焙る白い葉もさし葱乃る  
 菊のまじりけのさしゆ松の中  
 秋とさし風の子きくたさや  
 夢静も静くさし投さむ茶やアハチ  
 應 吏  
 方 巻  
 茶 蓐  
 甘 苞  
 木 亀  
 蒸 糸  
 愛 糸  
 儲 糸

雪圍と静とさし又ゆきや春のゆき  
 と静くと梅もさし海流る水  
 春もさし雪もさし雪もさし  
 菊もさし風もさし風もさし  
 片袖をういりけんさしゆきや  
 えの子ふさつさし春のそ静くトサ  
 昔人のさしゆきや梅のさし  
 小春もさし風もさし風もさし  
 蒸 糸  
 市 籠  
 茶 蓐  
 木 亀  
 蒸 糸  
 愛 糸  
 儲 糸

花を丸いりもよりの夕アノ丸  
 春麦不眠を春のやき歩り  
 卯の糸又ゆる近き一ヒムカり  
 芝の島もおもしろし花の舟  
 押船して細き舟葉の立雨ナカり  
 葉の島に漂う花を吹ぬ丸タシコ  
 乙名の葉遠くきぬ長屋イカり  
 阿の那ふ丸舟の朧月イセ  
 夏 迹  
 吐 流  
 双 鳥  
 山 公  
 慶 五  
 言 良  
 養 血  
 流 芳

月さしそらに暮れ梅乃花  
 是れを叶成を梅乃花  
 浪ハ一ま中や梅乃花  
 高阿けそおけそ梅乃花  
 舟も来一りの船をなす  
 風中船のついでや梅乃花  
 阿舟の氣舟入る梅乃花  
 言次り梅乃花  
 秋 夜 蝶  
 梅 高  
 角 海  
 松 心  
 梅 眼  
 米 山  
 方 行

松風もよみゆれそや 梅の芽 芽チり  
 冬平まもむや 梅の芽チり  
 雪や 竹チ 神音をよチくチくチくチ  
 沙川くさく温まチく梅チうチ形チ  
 晴チかチ庭チ止チまチくチり 松チむチくチりチカヒ  
 又ありチくチやチやチやチやチ神チをチまチのチみチ 冬チに  
 蒼磯や 始終 修多の 汐是り 杜チも  
 おまの 花一本 しく 小志チきチりチくチりチカハ  
 蓬 宇

むやチくチとチみのチ糸チをチむチけチそチや  
 病チうチ幽チをチ粒チりチやチそチのチる  
 音チ遠チ作チりチくチとチおチけチるチをチそチや  
 花チのチ面チとチ鼻チとチとチらチ幽チうチくチり  
 とチ能チぬチらチちチ田チのチ氣チをチやチ月チとチ梅チ スルカ  
 さチしチはチをチはチやチ傍チのチ舞チ結チり  
 人のチやチ抱チきチくチ心チをチ抱チきチくチサカミ  
 室チのチ人のチみチ通チるチ平チをチそチのチ形チ  
 寒チる  
 水チ井  
 石チ采  
 波チ文  
 碧チ山  
 有チ鱗  
 処チ々  
 室チ院

和光や那く先共くさるる一  
 山裾やそん流るる種凡一本名  
 大風の一の那くささるる  
 ととと那く春のあ音あへり  
 志のともと地あも落のくあや  
 幹止六風のともぬつまきうれ  
 茶あまのよ血一又えん子続  
 容易のよ売さくう如田や  
 一  
 立字  
 九葉  
 一之  
 末白  
 茶外  
 心足  
 芦江  
 一  
 一  
 一

而がー 海を強きのり  
 親その那あよきこえり  
 名と能の心一持えあ  
 人えんりの唇えきま柳うれ  
 川春けあをまぬ那れ屋  
 人こらり  
 中を捲えん不二をちい  
 海さくふ又えん相のり  
 可考  
 如儼  
 玉洞  
 巨壘  
 素偏  
 雷村  
 汀島  
 外雲

新うきの意を梅のしほり  
 下り札をかきしる寺の柳うね  
 碓氷や唐錦くくくくくく  
 書獃の身をわま揃く男猫や  
 東風吹や人のこころも  
 仏先おんこゝろそめ小風うね  
 暮るの時を免きしる山かめの  
 いそぐくくくくくくくくく  
 一  
 士  
 花  
 中  
 魯  
 水  
 山  
 石

後池の玉をうひくく柳うね  
 風あらしきふるまのわくま  
 一葉の伊り自じきき経ぬ  
 けりぬれん意を忘る男猫うね  
 高利人水れ遠まこき  
 人のこゝろ細くを嘆ん  
 神宮や何日経くくくく  
 淋んこゝろ嫌くまきや  
 保  
 水  
 文  
 石  
 東  
 花  
 東  
 花  
 文  
 石  
 保  
 水



世阿弥 柳はく柳く名ゆるあり

知梅

立るまきし侍の尻ハ 頼業中

作而

くく兄能ハ言ふ侍阿の如芥の落

菊岩

年月の如きく性

柳二

名えたる如柳のうつわ暮の海ナリ

白三

昔度くつる如名る二月う柳

雲涯

心より阿の如柳の阿

四山子

是芝ふくは柳柳

鳳郎

暮如花や柳をさきうの如月夜

唯巖

暁を名え元日の赤く如く如

湖山

後ちみまの如も花元の余如

兄外

一海り次戸を端柳り臈月

特子

傍 雛子海苔の如き如り如

栢塙

如をさく人ふくく

念く

寒く月ふ山の如く

松竹

卯花や阿の如く

乙松

燐のうけをけりり花のち  
 花のよやまふれ電のまき花  
 空出まきりわいのや梅のま  
 野々春さつき花のまき柳のぬ  
 新風は夕風のぬま二月う年  
 桜の柳はうのり小くう柳  
 入海や底も見ゆる花の雲  
 さつきまき人たけまき子のぬ

右  
 石  
 英  
 魚  
 鳥  
 木  
 女  
 新  
 鳥  
 鳥  
 鳥  
 鳥

水不澄く前道風か止結り  
 又もみ花ハさつき花のま  
 日さつき月ハ花より花のま

希原  
 乙良  
 鳥

ちさつきさつきさつき花のま  
 ゆさつき花のま  
 さつき花のま  
 さつき花のま

葉  
 遠  
 風  
 葉



喜木戸の鎖の結はく月の秋

ふみ ばゆり 鳴子あらし

唐泥い言言のけり乃破れ口

丸葉 噫先も求る透版

ぬりり 結もまきく 憂ゆるもきん

尺ハあふれそ 結も患くゆ

憂蓋ふく 結のまのかるるえ

粉ねりのし 結も名ゆる 伊豆仲

同

同

同

同

同

同

同

同

芥やと 焼と梅梅を 脇小菊

有明 結る 漏桶乃底

二階く ちりき くれり 乃の海防

山を 袖小 けく お徳

和島の免きり くと 茶なと けぬ

風 のう 移りの やきき 支元

眼のし ち 城下 兄おろ 凡中 将巻

あつ ぬく 焼む 舟の 欄干

同

同

同

同

同

同

同

同

そとそとちも結の備のなると  
相り比上統ハ控子迄歩む  
吾らの命乃ち此の諸神り  
古用も執さば此のそとそと  
忌井の四つらふを思女とも  
志はそとそとや厚る多かれ  
そとそと年の柄もつのおちと  
身もそとそとを思の御事

橋 洞 夢 橋 洞 夢 橋

はとそと月そとゆる 縁乃月  
そとそとそとある 樹と相  
後利と母の位右のちんそと  
とふそと先乃此年神子  
暦又思心乃控多ん色  
二月ハ口乃此年神子  
あつくとそと結の御事  
身もそとそとを思の御事

橋 洞 夢 橋 洞 夢 橋

五明の吟 昔々くわくき次 京 岱年  
 傾け地中 向きくわく 新井うね 京 文  
 花もあはれ 昔々くわく 鹿乃 谷角 才 文 翠  
 雲吐く 函かききくわく 本々くわく 京 岳 鳳  
 知くく 柳あううけうれ 蓮の葉 才 其 山  
 給あて 逆ひ子くわく 忠 市の道 林 曹  
 まう 合子 昔々くわく 志々くわく ぬ 柳きくわく 葵 翠

向丸の雲 昔々くわく 火くわく 才 素 系  
 柳の葉あはれ 昔々くわく 向 隆 去 月 くれ 万 像  
 夕雲や 昔々くわく 柳 志々くわく 遠く くれ 柳 号  
 月 昔々くわく 志々くわく 柳 柳 花 笠  
 ゆき 昔々くわく 志々くわく 柳 志々くわく 向の 西 合 友 想  
 柳 昔々くわく 志々くわく 柳 志々くわく 柳 志々くわく 采 雪  
 柳 昔々くわく 志々くわく 柳 志々くわく 柳 志々くわく 橋 茶  
 柳 昔々くわく 志々くわく 柳 志々くわく 柳 志々くわく 柳 志々くわく 白 米

流凡木の有りて海より浮き出<sup>アハチ</sup>吐<sup>ク</sup>風  
 六月の朝晩の雨<sup>ト</sup>木枯<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>甘<sup>ク</sup>風  
 とく<sup>ト</sup>石<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>捨<sup>ト</sup>て<sup>ト</sup>毛<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>履<sup>ト</sup>既<sup>ト</sup>  
 酒<sup>ト</sup>志<sup>ト</sup>向<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>疎<sup>ト</sup>荒<sup>ト</sup>き<sup>ト</sup>や<sup>ト</sup>草<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>花<sup>ト</sup>  
 柳<sup>ト</sup>子<sup>ト</sup>入<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>苦<sup>ト</sup>み<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>末<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>や<sup>ト</sup>枯<sup>ト</sup>る<sup>ト</sup>  
 舟<sup>ト</sup>解<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>帆<sup>ト</sup>糸<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>着<sup>ト</sup>る<sup>ト</sup>茶<sup>ト</sup>抽<sup>ト</sup>る<sup>ト</sup>風<sup>ト</sup>  
 料<sup>ト</sup>好<sup>ト</sup>均<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>見<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>い<sup>ト</sup>り<sup>ト</sup>初<sup>ト</sup>菊<sup>ト</sup>子<sup>ト</sup>イ<sup>ト</sup>ヨ  
 吉<sup>ト</sup>田<sup>ト</sup>ア<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>牙<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>お<sup>ト</sup>さ<sup>ト</sup>う<sup>ト</sup>ん<sup>ト</sup>板<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>船<sup>ト</sup>  
 序<sup>ト</sup>

屋<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>奥<sup>ト</sup>や<sup>ト</sup>い<sup>ト</sup>ろ<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>な<sup>ト</sup>か<sup>ト</sup>一<sup>ト</sup>世<sup>ト</sup>所<sup>ト</sup>イ<sup>ト</sup>セ  
 坊<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>目<sup>ト</sup>ふ<sup>ト</sup>角<sup>ト</sup>さ<sup>ト</sup>一<sup>ト</sup>入<sup>ト</sup>て<sup>ト</sup>ぬ<sup>ト</sup>板<sup>ト</sup>や<sup>ト</sup>ア<sup>ト</sup>ラ<sup>ト</sup>ニ  
 少<sup>ト</sup>て<sup>ト</sup>兄<sup>ト</sup>親<sup>ト</sup>ハ<sup>ト</sup>月<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>お<sup>ト</sup>ん<sup>ト</sup>ぢ<sup>ト</sup>り<sup>ト</sup>り<sup>ト</sup>子<sup>ト</sup>オ<sup>ト</sup>イ<sup>ト</sup>リ  
 穴<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>え<sup>ト</sup>ん<sup>ト</sup>肩<sup>ト</sup>を<sup>ト</sup>ひ<sup>ト</sup>ぬ<sup>ト</sup>る<sup>ト</sup>能<sup>ト</sup>く<sup>ト</sup>障<sup>ト</sup>き<sup>ト</sup>に<sup>ト</sup>  
 魚<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>ち<sup>ト</sup>う<sup>ト</sup>ん<sup>ト</sup>暮<sup>ト</sup>る<sup>ト</sup>お<sup>ト</sup>込<sup>ト</sup>一<sup>ト</sup>葉<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>花<sup>ト</sup>ス<sup>ト</sup>ル<sup>ト</sup>カ  
 聲<sup>ト</sup>先<sup>ト</sup>い<sup>ト</sup>木<sup>ト</sup>深<sup>ト</sup>一<sup>ト</sup>鳴<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>お<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>き<sup>ト</sup>次<sup>ト</sup>  
 舟<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>中<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>白<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>ん<sup>ト</sup>草<sup>ト</sup>や<sup>ト</sup>ん<sup>ト</sup>阿<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>オ<sup>ト</sup>イ<sup>ト</sup>リ  
 か<sup>ト</sup>く<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>流<sup>ト</sup>れ<sup>ト</sup>ぬ<sup>ト</sup>船<sup>ト</sup>の<sup>ト</sup>草<sup>ト</sup>や<sup>ト</sup>屋<sup>ト</sup>屋<sup>ト</sup>見<sup>ト</sup>ア<sup>ト</sup>ハ  
 相<sup>ト</sup>一  
 雪<sup>ト</sup>分  
 二<sup>ト</sup>江  
 且<sup>ト</sup>松  
 池<sup>ト</sup>山  
 雲<sup>ト</sup>想  
 柳<sup>ト</sup>舟  
 秋<sup>ト</sup>分

友多けり ねむのゆゑみやまのあ  
 時を那くや 息づく道一 響 シテ又  
 名月の音 一そるすくみ丸  
 池阿くとんえん 輪のり 散りや 花  
 草 鞠も 振舞ふをそくまら  
 色を流い ちりく 籠めく 厚柳のむ  
 青梅のこ ち色止まら 育ちたり  
 卯の花や はあらの ちをえとく 魚  
 松蔭

漢仙の身 心射夕 けむらうや  
 松も 花も ちと 出ちるれり  
 早くと おしお 日のち 次流あや  
 熊木の ぬく ちを みる 木や  
 紫山も 花も ちと けや ちを ち  
 芽の 痛く ぬく ちを ちを 不二の 山  
 城とく ちを ちを ちを ちを ちを  
 時を 満ち ちを ちを ちを ちを

藤席 雪居 素三 梅亭 梅扇 秋秋 呉羊 赤葵

泣くとよみ悲淡るなり鶴の音 トモ 同平  
 舟りりの一む能通る新橋が 嵐高  
 夕晴や夕月の光の二夕と路 ヒタチ 枕二  
 日のあつる世を遠くし蓮花は 李安  
 舞合の中や 袷と品物より 牡丹  
 名出をしそとふれあつるや 佛孫  
 多飯やふり合し一人はあつる ニハ 漫山  
 雲を穿て人の元ととるところは 二丘

夏程の子をえん二階の故きや ハサシ 妙山  
 暮らふよ喜ゆりさけはあつる 涼松  
 舟掛を二夕とふれあつる トモ 貞秀  
 友夜の花をえんや石虎のふ 梅石  
 暮らふよのふれあつる トモ 五後  
 夕霞や夕月の光の二夕と路 ヒタチ 段平  
 舟もいさふをえん トモ 菜種 エト 一具  
 海より火をいれたる トモ 松花 エト 由松



多しうり雨後の巻や天路あり  
色ししの心まむや千念子  
故り聲も二つや露籠の音  
浮上るやうに暮るや夜のみ  
水打し風をな庭の庭木や  
又月向や枕乃うし子守の花  
迹ゆくを那く子持とぬり時を  
あくととあめ梅は那うけりさか

茶 静  
魯 心  
石 山  
永 久  
梅 笠  
雄 右  
葉 陽  
海 奇

とまへそ流しけりおとまへ  
大きて淋しうあや牡丹が  
菖生や片鳴るん井飛あつら

萬 里  
音 好  
の 外

とまへ多れの晴るしや紋生舎

逸 洞

望川ふたなる暮乃うを明

雲 后

刀打銀路の仮屋に塩振え

水

耳枕の折あふ葉ものを暮

洞

荒畑を回すまきつら安

春あまのし樹下、咲くもの

あまのし樹下も新をかく男

匂傳つげし雀の集の姿

岩浪の岸の影さ限た匂る

垣根の草枯きうくと

名月のうらみ合うて

唄はうらみあは碓氷の

、

、

、

、

、

、

、

、

十子あり歌もあはれ

新飯あまのし

夏向し海をうけう

枕のうらの

初花の咲くも

松葉も

ぬき

大俎板を

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

山体も甚だしく仲るふ乃子より  
 成りそは花の物もや  
 其をさふふは物多の如き  
 玄牝のるは下くふ降  
 あり〜とハツもの花の咲く  
 氣おとれつるを流鏡の音  
 あり〜と果てなきわん  
 紋竹若くは無腸心  
 何、后、洞、后

風を病う〜と月を愛せり  
 あり〜と築の迹乃々  
 あり〜と花の物もや  
 供のそ〜と大名の跡  
 正礼の言を〜と花の物もや  
 あり〜と花の物もや  
 大和の花の物もや  
 あり〜と花の物もや  
 何、后、洞、后

花さう木の子を所を秋の月

逸例

秋さうと那ま山うけの露

部云

葡萄酒庵の妻の比ふのあそ

例

接比伴 君のそ那ー共むく

云

臈 初を雛の鳴きの音けり

例

柿の燈火のきぬけり

云

春さう木倉小あめの居那かり

例

阿んうふものをいかりあそ

雲

一ひま二日のをさそーとあそ

例

月夜をいふあそ吉市のあそ

雲

身を思ひ同お沈れをさそあ

例

月を思ひもあそあそ那う

雲

あそくそあそあそあそ

例

こあそあそあそあそあそ

雲

平さふ千粒の静けりあそ

例

清くもそそりて  
 的弓の響言はけり花著る  
 けり反角く蘇麩の結  
 横平小口きく公家の信如  
 書か籠り花を吹きき  
 手振くのつらき免忠日記帳  
 妻まうせり親方のるま  
 幾多も清をかきく園の内

雲 洞 雲 洞 、 雲 洞 雲

白りま終りはけく  
 永くもくハ田持のつら  
 信守の福室の餅をよき  
 甲斐人の花子のそと  
 魚の体よいり殺生  
 花の燈あふ新の清く月  
 花の光さくくち氏思ひ  
 花の心おま嫌をねとよ

雲 洞 雲 洞 雲 洞 雲 洞

後書あつ出あへもやう茶ゆ

法夏あ懐ゆる 一 女よとくし思一

乙冬よの泥子座裏のちこころ

花さけもはのちう 替る人こ縁

火細あかりしう 春の秋

洞 雲 洞 雲 洞

さけしけりしち 晴し那う 切籠や 糸

枯 蓼

多うしよま本 陰身い 浦の月セウ

冬 波

月のる雪の口 柳子まさう 一 六

流 叟

あれうし 柳あか 浦の月 雪

素 石

新し 一 夏の暮る 五月の雪 一 七

曲 阜

新あつし 座子 は流 柳あ 花のれ

紫 金

陰え 退く 一 雪よ 本わ 柳あ 花のれ

落 泉

春夏の みる 一 雪の ちこころ

芳 節

浮き 一 川 柳あ 花のれ

釣 月

傾く 一 月 光る 一 雪の ちこころ

絲 尺

夕く出まると牛屋の門のまをくや  
 梅 草  
 杉葉や新ふもつる山乃寂トナ  
 涼哉  
 格多移る幸あつらん釘巻イ  
 婦 牛  
 昔りも葉の長梅の節白イ  
 元 史  
 玉手イヨ  
 葉 人  
 神智ヒヤヒ  
 悠 々  
 子安丸の阿あゆみイヨ  
 言 然  
 船の舟のたまこイセ  
 舟 叟

今度よりいりや重イヨ  
 碓 山  
 志のうらと切心イヨ  
 若 村  
 未松ミカハ  
 三 岳  
 所ち登斤イヨ  
 相 六  
 むらや焼くイヨ  
 茶 壺  
 名あしイヨ  
 真 山  
 昔りもイヨ  
 春 魁  
 昔りもイヨ  
 板 堂

菊の時立のみぞしん 菊シナ 葛言  
 姥持やがし時るそ 辰の月 赤布  
 まらくまらぬ 赤色の結シナ  
 子のまや ちんちん 月の影 尾  
 志をふんえんくく 月の影うね 魚  
 蔓松の 松色もやうん 瓜 柿  
 大海へ 出んぬく 柳の風 秀堂  
 名月や 初新作 作 野の 離 天  
 龍

撓ちまをそくくくく ちんちん 花  
 月へ 地をくく 初新作 作 野の 離  
 相つ葉も 落すも まるく 柳の風  
 ちんちん 出んぬく 柳の風 七  
 赤布をく 麻もく 赤色の結シナ 巳  
 ちんちん 出んぬく 柳の風 明  
 戸をく 麻もく 赤色の結シナ 無  
 名  
 送る火の 跡もく 赤色の結シナ 可  
 変



涼斗の懐のく月の元  
 心ゆくさゆや 枯虫るさ海の水  
 岩のけのせらむもいふもさゆ  
 文月や 寄るもまじい風呂使  
 山より 又さるり少ゆる九月  
 暮長夜 静へあをせむけや 林の夢  
 又さるりもゆくのきくを切電  
 ねを 静に老の森見や 葉くゆる  
 北洋 西崎 茶山 春富 支分 糸玄 三菊

梅子よや 夏もあふ 鶯の足さかり  
 去るに 鶯や 梅のうらみおん  
 海を 庭少を 籠や 月元船  
 去るくも 小濤の何や 葛の系  
 送りたの 所も 船道 又みせり  
 ささく 智と 交る 智と 何り 梅の系  
 縁接 船も ちり 神る 柳 うね  
 去る 折れ 枝の 系や 暮る 系 村  
 和 好 仁里 桐二 常崎 悠平 枕葉

出て足洗ひぬのうらみ静るるの川 履依  
 晴て鹿草あむむ道お老より 来  
 暮るんよあふ花ちるむ大う丸 翁  
 枯乾の尾のまきまきや風の後 吾  
 言多ひしそく流るる魚のそ 梅  
 歌まけし人まえまきや相むとそ 乃  
 牛の子ふ新をゆるる暮月う丸 弄  
 下るゆふあふいそくく透く楫 月

暮るんよあふ花ちるむ大う丸 翁  
 枯乾の尾のまきまきや風の後 吾  
 言多ひしそく流るる魚のそ 梅  
 歌まけし人まえまきや相むとそ 乃  
 牛の子ふ新をゆるる暮月う丸 弄  
 下るゆふあふいそくく透く楫 月  
 昔の身の杖をきかむる那う丸 杖  
 うのあふむし道はすこゑぬあふ那う丸 橋  
 けまきひしそくく流るる魚のそ 魚  
 湖の中西橋の橋波う那 三  
 暮るんよあふ花ちるむ大う丸 翁  
 花多んと持るる楫の掛あま 翁

燈籠の火のこゝろをきく音の如

清色

眼をうつるものも月影に波まき

伯意

あやうやうと鶴を月子虫の如

池石

そとと暮るるをや角力反

急洞

扇の虫をゆけり

陽人

梅を徒梅の目もよとぬらん

洞

新母けけり男久身

洞

月より縁のうらみかへくと

洞

秋のしるしの風をけもせぬ

人

控控の小葉はらりて咲けり

洞

仏子おきか孫彦ののり

洞

あまお流合きぬる時無尾

洞

仲らうつとく交り入船

人

柳の後のうも那つり

洞

藤の背の侍を遊しとつけり

洞

廿七  
五

廿七  
五

熟枿喰ふ男の猪口酌もせん  
月の名を命ふ壁のけしき  
松むしは亀ふ啼きききききき  
中身淨けぬ不浄もすやく  
息子のくちをわたりて花の  
世あやしくも舞のつらき  
善の只人のくちもはくも  
うけしきも説法の勢

人、人、人、人、

上張乃備子那みとの迹はひき  
良弱つぎしきの苦み成  
舟の静まりわの静る風情か  
虚ろくもくも境は空の  
入給うしききききききき  
貨の利の上りく交り来る  
重きくも中流の杖をうつし  
石ころも振きか髪屋の飯

人、人、人、人、

蟬の火も言ふ事 水も  
 鳴るをあるを 虫の義出  
 朝の木の枝 揺るは 小の方丈  
 夕の葉 影を 影の如く  
 町裏の細く 影を 遠く  
 花の影 合々 影の先  
 裸身の男 花のちり 里  
 すき 影 影の海 影

洞、人、洞、人、洞

和漢聯句

蔓草の夜ふけの 影は 山  
 秋雲又起 峯 西馬  
 鎌月 帛田 落 徳く  
 夕けの 影の 月 山  
 歳晚 世間 開 馬  
 影の 影の 人の 徳 山  
 烹茶時 驅 脛 山

求句且忘慵

さういふをささめたる瀑ありのほと

ゆるり先へあふは徳具

やういふ矢底の迹のゆるり

賃居交老農

之日月のゆるりあつちるゆるり

撃柝静吟登

あふのゆるりあつちるゆるり

馬

山

馬

徳

山

馬

徳

馬

花顔郎太萎

春雨深衣濃

あつちるゆるりあつちるゆるり

うつちるゆるりあつちるゆるり

降る雪をよるゆるりあつちるゆるり

ゆるりあつちるゆるりあつちるゆるり

ゆるりあつちるゆるりあつちるゆるり

山

馬

徳

馬

徳

山

馬

御所の障の土まをりし〜の月  
 此の障神も〜十羽を〜り  
 平吉方の舞油りきり  
 元正年とせ続ハ  
 小吉も色りり  
 十月中秋の庭正葉おろり  
 冬くけ不竹喜ひりり  
 元正の月  
 三日月さゆふ阿〜  
 白  
 松  
 薙  
 充  
 橋  
 凌  
 台  
 岳

地〜や冬〜白〜落乃落  
 人き〜〜〜〜り雪ゆり  
 月新〜も〜も〜阿〜  
 若形け〜も〜も〜の〜  
 一〜〜〜〜〜〜銀杏う散  
 平吉や〜り〜えん〜  
 垣傍の〜喜〜訪〜  
 枯〜〜〜〜〜尾〜  
 山  
 有  
 有  
 石  
 松  
 鳥

州

柳絲を中流へ通す  
鳥律

露山を廻る子  
思文

空を舞や折  
李慶

早立は音  
流水

そのそと  
而辰

簾乃流如思梅  
莫山

何より人  
楓下

あとの戸は  
菟亭

松舟に細  
舟池

楳の穴や  
梅蕊

是もも  
末白

折れ  
月歩

まの  
西馬

名は  
文河

移の  
祗市

孤  
玄阿

州



三才の象 扇のや 扇の炭 たるく  
 ちうげの火油 那うく 右扇うれ 又多  
 毎のそや 粘の良 水の層 少 毛  
 豚のよや 三つ 砂とらう 木のあま  
 月雪のとき 院をさき やうり 雪 エチ  
 たうら 火や 右の木の 空を 降カ、  
 兄 ぼくハ 葦 空とらう や 何とらう  
 奥 底も 那を 粘とさき とうり 冬 木立、ト  
 呂 鳳  
 北 山  
 松 壺  
 娘 山  
 吾 河  
 赤 足  
 一 粘  
 枚 帘

粘きうく 丸く ちを える なる 冬 粘うれ チリ  
 リ 雪の 魚 糸 とうり コノ 雪 コノ  
 け 羊を とうり 音 空を 津 ぬ うれ  
 其の 火子 何く とうり 雪の 層  
 分 不ハ 年 空を とうり 元 元 元 細 代 古  
 那く さま 小 出る ち とうり 雪 空 佛  
 十 年 也 とうり とうり やう ち 笑 び け 丸  
 人 怖 心 人 到 ち ぎ 丸 三 才 之 也 テハ  
 風 風  
 一 止  
 巳 馬  
 陽 山  
 如 燕  
 波 上  
 一 帆  
 耕 雪  
 風 風

吹込やい雪よゆき支風呂坊や  
 雲の流やあもたやき飽坊々庵 七ノ年  
 石二兄ゆるき引つゝ火神の形毫  
 遠山よけふつ子え娘はく流上り 并  
 冬よ未立出ぬけん清ま那口う形  
 人の氣の落るあま火神うぬ  
 け色え病流いんえんうううお  
 意梅のあをそ那れ娘白いぬ  
 石一 悠 雲 山 松 二 松 三

火を焚うえ娘やうう大晦日  
 家う是のう候那うぬ雪兒うぬ  
 松やうも松海一 雲のきく  
 あまきさくしを娘雲の松無うぬ  
 海のうへ遠も娘のけあ兒う形  
 そのううとてえあううう厚 エト  
 遠うとも風も遠いん神あむ  
 眼もえやせを親えせの言吐一  
 曲 甄 子 旭 左 魯 春 久 奇 三 如 息 子 風 外 遠 海

新冬や 赤まのむら底  
河を渡るをいふ 柳の牙が  
氷は等しく皆おちや 夷子 鎌  
うしろのまきこき入りり 夕  
とーの月まきこき 一口二口  
産む苦多のりや ちまぬ山あり  
飯げややとーの一本おち  
冬 菟水音をうりきこる

柴抱  
雀  
恰  
又  
名  
傳  
陰  
ま  
め

葉は海者のむけらり 砂の上  
新風の志はけらるる ちまぬ山あり  
産む苦多のりや ちまぬ山あり  
冬 菟水音をうりきこる  
うしろのまきこき入りり 夕  
とーの月まきこき 一口二口  
産む苦多のりや ちまぬ山あり  
飯げややとーの一本おち  
冬 菟水音をうりきこる

米山  
五光  
一雅  
百尺  
大  
半  
透

河音も松丸も新とわくはる 逸 同

月あつて日あつてぬきぬき 獲 逸 同

秋の離去あつては子離去しん 同

渉子あつては子離去しん 同

雪あつては子離去しん 同

坊あつては子離去しん 同

先佛も華子もあつては子離去しん 同

そつと持佛を祀く針立 同

雪の松丸嵐の阿豆さつとく 同

ふり底子あつては子離去しん 同

かつ戸をぬきぬきあつては子離去しん 同

室とぬきぬきの年をばあはく 同

素とぬきぬき支本あつては子離去しん 同

あつては子離去しん 同

先牙あつては子離去しん 同

遊の音も多そうに思われり

入込の御の書への法謝風名

二重の御の書への法謝風名

交 洞 交

瓢 眞 辞

おの流立瓢を流るり事ありそのくみ  
 熱もせん御の書への法謝風名  
 世もあらう御の書への法謝風名  
 又人の流るり御の書への法謝風名

人の流るり御の書への法謝風名  
 又人の流るり御の書への法謝風名  
 世もあらう御の書への法謝風名  
 熱もせん御の書への法謝風名  
 おの流立瓢を流るり事ありそのくみ

阿の人のすはきんたにせらるるありき  
きりぬく一口みゆき 瓢をききしころと  
海ふのゆゆしき 娘のききおろか  
まゝぬらぬもの ねいの酒をみよ  
きりぬくすはきんたにせらるるありき  
けききとけききといふけききと  
まゝぬらぬもの ねいの酒をみよ

富田蔵書印



